

令和6年度 第7号

令和6年11月5日(火)発行

学校教育目標:「ひと」とともに生きる生徒の育成



植竹中だより

学校 Web ページ



目指す生徒像:気づき力を高め「元気に登校」「笑顔で下校」 さいたま市立植竹中学校

〒331-0804 さいたま市北区土呂町352 TEL 048(663)2115 FAX 048(665)6377

感動をありがとう！

校長 上 続 昌 司

9月初めの激しい雨の日、ご高齢の方にやさしく声をかけ、その方の手を引いて助けてくれた男子生徒がいました。その様子を見ていた近隣の方から「素晴らしい行動なので、ぜひ伝えたい」と、お電話をいただきました。1学期から私が知っているだけで、同じように困っている人を助けてくれた本校生徒の情報を、近隣の方から聞くことができたのはこれで3件目です。目の前で困っている人がいたら、助けようとするのは当たり前のことではありますが、行動に移すことができるかどうかは、難しいものです。状況によっては助けたくても助けられない時もあります。自分一人では無理だとしても、他の人と協力すれば助けられるかもしれない。助けることはできなかつたけれど、他の人を呼んで協力することができた。きっと皆さんも、今までにいろんな場面に遭遇し、考え、時には行動することができてきたと思います。自分にできることで良いと思います。声をかけるだけでも良いと思います。その積極的な想いは、必ず相手に伝わっているはずですから。

さて、10月30日に開催した合唱祭について振り返ってみたいと思います。1学期には、各クラスの曲、伴奏者、指揮者、パートリーダー等の役割を決め、9月に入り、本格的な練習が始まりました。音楽の授業や放課後、学年練習や他学年との合同練習等、様々な場面で練習を積み重ねてきました。日を追うごとに、その熱量は高まっていきます。休み時間、次の授業の用具を持ちながら合唱曲を口ずさむ姿を何度も見ました。その表情は、とても明るく楽しそうで、見ているこちらまで楽しくなりました。クラス練習では、音取りに苦戦している様子もありました。特に低い音のパートのグループは、主旋律を歌っている近くのグループにつられてしまって、何度もやり直している場面に遭遇し、「合唱祭当日までに間に合うのかな」というような気持ちになったのを覚えています。また、中庭で歌っているクラスもありました。環境を変えることで気分も変わるし、よりしっかりと声を出すのに有効な手段です。このように、当日まで試行錯誤を重ね、何度も何度も歌い続けてきました。そして、当日を迎えました。1年生は、1年生らしい元気な歌声で、それでいてまとまりもあり、きれいな声を響かせてくれました。中学生として初めての合唱祭を楽しんでいる様子が印象的でした。次に2年生。明らかに1年生とは違う歌声で、「さすが先輩」と思わせてくれました。声の質もそうですが、指揮者、伴奏者と一体となって作り上げてきたことが伝わってきました。そして最後は3年生。「さすが最上級生」と思ったのは、聴いていた皆さん共通の感想だと思います。そのレベルの高さに終始感心し、驚き、感動させてくれました。私は審査をしていたのですが、何度も審査していることを忘れ聴きいってしまいました。それほど曲に酔いしれていたのです。観に来てくださった保護者の方や、地域の方々も「感動です」「素晴らしい歌声です」「涙が出てきました」等の感想を話してくれました。なぜ、合唱はこれほどまでに人を感動させてくれるのか。それは、一生懸命に歌っている姿、一人ひとりの想いが声となって響いてくるからだだと思います。開会行事が始まる前、ある3年生の実行委員さんが言っていた「もう今日で終わってしまう。」という言葉が忘れられません。合唱祭に向けて取り組んできた日々が、充実した掛け替えのない時間だったことが伝わってきます。クラス合唱だけではなく学年合唱も圧巻で、言葉で表現するのが難しいほど素晴らしい合唱でした。歌は消えてしまいますが、取り組んだ人、聴いていた人、全ての人々の心に素晴らしい感動とともに消えずに残り続けます。改めて心から伝えたいと思います。感動をありがとう！